

一本のストローから

静岡市内中学校

大村 さん

六月にグアムの高校生がホームステイにきた。彼の好きなアニメは僕の好きなアニメと同じで、英語があまり得意ではない僕でも、アニメの話なら抵抗なく会話に入れた。彼女の話、アニメの話、食べ物の話、グアムの学校の話など、しゃべる言葉は違っけれど、僕の兄と同じ普通の高校生だった。

次の日、彼と一緒にハンバーガーを食べに行った。注文した品物が来た時、彼はカバンをあげ、布の筆入れの様な物を出した。グアムの文化では、何か特別な物があるのだろうか、と思いながら、その中身が気になった。

中には、青くてキラキラした三本のストローが入っていた。一本は細身のストロー、一本は少し太めの先の曲がったもの、一本はタピオカ用のような、とても太いもの。しかもそれぞれに洗浄用のブラシが付いている。

「Why?」

思わず口に出してしまった。彼が説明してくれたところで、僕には英語が理解できないのにマイストローを持ち歩くということにおどろいて、

思わず言ってしまった一言。ストロー同士がぶつかり、風鈴に似た涼し気な音がした。そして、彼はストローを見せながら、僕が理解できているか確かめるように、ゆっくりと、言葉を探しながら話してくれた。でも、残念な事に僕に聞き取れた単語はほんの少し。

「environment」(環境)

「turtles」(かめ)

「died」(死)

「microplastics」(マイクロプラスチック)

でも、この単語を聞き取っただけで、彼の言おうとしている事は、容易に想像できた。そして、グアムの僕達世代の約半数が、マイストローを携帯しているとも言っていた。

ハンバーガーを食べる前にそんな話を聞き僕はストローを使えなかった。グアムの高校生も僕とそんなに変わらないと思っていたのに、環境やゴミの事を真剣に考え、しかもそれを行動に移している。小学校の頃、環境問題について学習したにも関わらず、何の意識もしていなかった自分が恥かしくなって、コップから直にゴクゴク飲むしかなかった。そして彼を格好良いと思った。

僕はまず、マイクロプラスチックについて調べた。海洋環境において極めて大きな問題となっている。サンフランシスコ市では、ペットボトル飲料の販売が禁止され、フランスでは、プラスチック製の使い

捨て容器が禁止されるらしい。そんな大事なのに、日本ではせいぜいレジ袋を有料化しているスーパーがあるくらいだろうか。プラスチック製品があることで、昔の人の生活と比べたら今はすごく便利になっているが、その便利さと引き換えに海が汚染されている。人間が汚してしまった海は、人間がきれいにしなくてはならない。

自分はポイ捨てもしていないし、今の生活でマイクロプラスチックを増やすようなことはしていないと思っていただけから、今まで自分で何かしなければいけない、という思いはゼロに等しかった。でも、そうではなかった。知ってしまった以上、動かないわけにはいかなくなった。少し調べただけでも、好きな「ししゃも」は食べるのが怖くなったし、海が人間のごみ箱になってしまっている気がした。とてつもなく大きな問題だが、僕に何かできるだろうか。

すぐ出来る事は、やはりプラスチックゴミを減らす努力をする事だ。マイバックを携帯し、レジ袋をもらわない。水筒を持つようにして、ペットボトルを買わない。これは、おこづかいも減らないので一石二鳥である。留学生が実行していたストロー一本の対策のように、僕も小さな事から実行していこうと思う。

それと、学校の給食でストローを使わないよう提案してみようと思う。たった一本のストローでも、多くの生徒が毎日使わなくなればとても大きな結果になると思う。リサイクルすれば環境問題に貢献して

いる気がするがそれでは、プラスチック製品は次々と作られてしまう。だから、これからはリフューズ（断る）、リデュース（減らす）でプラスチックの使用を減らしていかなければならないと思う。

この先僕は、風鈴の音を聞くときくとあのストローを思い出すだろう。そして、自分が何をすべきか再確認する。あのストローのようなキラキラ輝く美しい海が戻ってくるように。